

# 令和5年度 第1回 恵庭市総合教育会議録

- 1 日 時 令和6年1月26日（金） 13：30～15：30
- 2 場 所 柏小学校（高学年活動室）、恵庭中学校（CS会議室）
- 3 出席者 （市長）原田 裕、（教育長）岩渕 隆、  
（教育長職務代理者）土谷 秀樹、（教育委員）白崎 亜紀子、  
（オブザーバー）副市長 横道 義孝  
（説明員）（柏小学校校長）東 祐史、（柏小学校教頭）鳴海 孝則、  
（恵庭中学校校長）津谷 昌樹、（恵庭中学校教頭）杉浦 浩、  
（恵庭中学校教諭）平地 亮介  
事務局  
（総務部長） 広中 敦、（総務部次長）山本 顕、  
（総務課長） 北田 元樹  
（教育部次長） 大嶋 克幸、（教育総務課主査）小井 裕介  
（ICT支援員）室木 茂良
- 4 傍聴者 3名
- 5 議題 議題（1）タブレット端末を活用した対話的・協働的な学びについて  
（2）その他
- 6 議事録内容

## 1. 市長挨拶

本日は令和5年度第1回総合教育会議ということで、柏小学校と恵庭中学校の授業を実際に見学しながら会を進めて参りたい。以前からこのテーマで会議をしたいと思っており、開催することができ大変嬉しく思っている。

一昨年からGIGAスクールということで児童生徒1人1台端末の整備を進めることとなり、慌ただしい状況であったが、全て整備を済ませて本格的な授業が昨年あたりから始まっている。

その実態について把握をし、今後ICTを活用した授業をこういった方向に進めていくのか、ご意見をいただき、この会議を有意義なものとしたいと思っているので、よろしくをお願いしたい。

## 2. 教育長挨拶

皆様におかれては、日頃より学校教育にご尽力いただき感謝申し上げます。

本日、議題となっているタブレットの活用について、導入してから中学校でいえば2年半、小学校でいえば1年半ほどしか経っていないという状況で授業をみていただく。昔我々が授業を受けていた頃とは違い、教師主体の授業だけではなく、子どもたちがタブレットを使って調べ物をしたり、自分の意見を書き込んだり、対話的な授業も行っており、先生方におかれましても、準備が大変だったのだらうと認識している。

本日授業を見学する、柏小学校は学習発表会や全校集会で花のふるさとを合唱していただき、ふるさと教育にも熱心に取り組んでおり、また、恵庭中学校は、管内・道内でも先進的な防災教育に取り組んでいる学校である。

本日は授業をみていただき、学校教育の更なる向上に向けて様々なご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

### 3. 議題

#### (1) タブレット端末を活用した対話的・協働的な学びについて

##### 【教育委員会の取組】

##### ●ICT教育環境整備の状況について

- ・市内小中学校に 5,919 台のタブレットパソコン Chromebook を導入・整備。
- ・令和 2 年度から段階的に整備を進め、令和 4 年 8 月に全児童生徒に対し端末を整備。

##### ●市内小中学校の端末活用の状況について

- ・市内小中学校の全教職員宛にアンケート調査を実施。
- ・教育活動への活用について、全体のうち、8 割以上が教育活動に「よく活用している」「どちらかという活用している」と回答。
- ・授業での活用について、ほぼ全ての先生が 1 日あたり 1 時間以上端末を活用、約半数が 2 時間以上端末を活用している。また、生徒の約半数が 1 日あたり 2 時間以上端末を活用している。
- ・授業では、Google OS 内のアプリソフトパッケージ「GoogleWorkspace」にある各種アプリを使用。先生が生徒に対し課題を与えたり、提出させたりするために使用する「Classroom」、文書作成に使用する「ドキュメント」、表作成に使用する「スプレッドシート」、まとめ作業で使用する「スライド」等がある。また、ホワイトボード機能がある「Jamboard」では共同編集ができ、グループワーク等で活用している。
- ・そのほか、ホワイトボード機能のあるクラウドサービス「Canva」「Padlet」「FigJam」やデジタルドリルの授業支援ソフト「スマイルノート」もある。
- ・また、「Kahoot!」「Quizizz」等、ゲーム感覚で授業の振り返りを行うことができるクラウドサービスも活用している。

##### ●生成AIについて

- ・生成AIとは、コンピュータが学習したデータを元に、新しいデータや情報をアウトプットする技術で、これまで人間が実施していた「考える」や「計画する」をAIが実行可能。
- ・教育の現場で生成AIをどのように取り扱っていくのか、どういうことに注意しなければならないのか、昨年7月に文部科学省よりガイドラインが出された。
- ・現時点では、活用が有効な場面を検証しつつ、限定的な利用から始めることが適切であり、懸念点やリスクに十分な対応ができる一部の学校において、成果・課題を十分に検証し、今後の議論に役立てる必要があるとしている。
- ・また、学校外で利用される可能性があることを踏まえ、情報の真偽を確かめる習慣付けを行っていく必要がある。

●デジタルドリルについて

- ・令和4年度に経産省の補助金を活用し、市内13校で試行実施。
- ・検証を重ね、次年度に一括導入するための予算要求および業者選定を行っている。
- ・児童生徒1人1人に対応した問題が出題される機能、自動採点機能や課題配信機能等により、教員の業務負担軽減に繋がると考えている。

●研修について

- ・今年度からGIGAスクール運営支援センター委託を行い、事業者によってミニ研修や夏休み・冬休みに合わせて外部講師による研修も行っている。

●ICT支援員について

- ・ICT支援員は、学校における教員のICT活用をサポートすることにより、ICTを活用した授業等を教員がスムーズに行うための支援を行っている。
- ・恵庭市の取組としては、令和3・4年度においては、GIGAスクールサポーターや道から派遣された職員をICT支援員として学校に配置した。
- ・令和5年度からは教育委員会の会計年度任用職員としてICT支援員を配置し、学校からの問合せやネットワークトラブルに対応している。
- ・次年度においては、GIGAスクール運営支援センター委託業務の中で、更に2名の支援員を学校へ配置する予定。

【柏小学校の取組】

○柏小学校 鳴海教頭より説明

●低学年での実践について

- ・操作を覚えるために、日々の授業に取り入れているが、「楽しみながら覚える」ということが特に重要と考えている。
- ・本校ではタブレットを活用することで、対話的な学びが更に深まるような取組を今後も行っていきたい。

<実例>

- ・生活科では、「Jamboard」を活用し、絵を描くことが苦手で時間がかかってしまう子ども、写真を撮ることで時間を短縮し、植物の観察をすることが可能。
- ・国語科では、「Padlet」を活用し、発表が苦手な子ども意見や考えを全体に共有することが可能。
- ・図画工作科でも「Padlet」を活用し、画像共有を行うことができ、作品を見て、コメントをすることも可能。
- ・1年生の場合はタイピングすることが難しいため、練習することはもちろん、タイピング以外の入力方法として、手書き入力や音声入力を使ったり、入力や操作に慣れるために「Jamboard」を使ったふせんしりとり等、楽しみながら習得している。

●本日の授業見学の内容について

- ・本日見ていただく5年生の授業では、自力解決の時間を確保した後、答えや考えを整理するためにグループワークを行い、出た意見をグループ内で共有し、最終的にグループごとに発表する時に「Jamboard」を活用している。

- ・授業の最後には振り返り活動という自己評価の時間を設けているが、本校ではそれをデジタル化しており、これを積み重ねることで、得意不得意が可視化されるようになっている。また、1年生はプルダウン方式を使用し、操作しやすいよう工夫している。

●デジタルドリルの活用について

- ・学習ペースにあわせたA I デジタルドリルを採用しており、自動採点ができるため、児童はテンポよく解き進めることができる。

●家庭へのタブレットの持ち帰りについて

- ・本校ではルールづくりをしっかりと行い、家庭でできることを少しずつ増やしている。

●今後の展望について

- ・いただいたタブレットを活用し、対話的学びを深めていけるよう努力していきたい。

～授業視察（柏小学校）～

【恵庭中学校の取組】

○恵庭中学校 津谷校長より説明

本校では、タブレットを整備していただいた令和3年度にプロジェクトチームを立ち上げ、そのチームを中心に授業実践や職員研修の充実を図ってきた。本日は、そのプロジェクトチームで中心となって動いている平地教諭に、概要について説明してもらい、そのあといくつかの授業を見学していただければと思っている。

○恵庭中学校 平地教諭より説明

●概要

- ・現在、「G I G Aスクール構想」実現に向けて、教職員一丸となり、1人1台端末の活用を進めている。
- ・本校では、端末導入前からI C T機器を活用した授業実践を行っていたことから、端末導入時も多く教員が率先して活用していったため、校内のG I G Aスクール化は進んでいった。

●G I G Aプロジェクトチームについて

- ・主幹教諭を中心とした本チームは、I C T端末の活用方法やルールづくりなど、1人1台端末に関しての様々な事柄を検討していくチーム。
- ・必要に応じて不定期に開催され、学校全体に関わる取組についてはチームで進めている。

●恵庭中学校のI C T設備について

- ・電子黒板、書画カメラ、DVDレコーダー、iPad（18台）はG I G Aスクール構想が始まる前から導入。Chromebook 導入後は、iPad は遠隔授業用として活用。
- ・デジタル教科書について、教師用は全教科・全学年に整備し、生徒用は数学と英語のみ生徒が利用可能となっている。
- ・教員と児童生徒のパソコンを連携させるために必要な「Inter CLASS」や、テスト

の採点の効率化を図る「デジ楽採点」、自分の学習したい内容をいつでも振り返ることができる「学びポケット」や「スマイルネクストドリル」も利用可能。

●具体的な使用例について

・カメラ機能（Chromebook,iPad）

体育の授業や部活動では、撮影した映像をテレビ画面に映し、教員から助言をもらったり、自分の動きを客観視できるため、技能の向上に効果的。

理科の授業では、通常2，3人で1台の顕微鏡を使用していたが、端末を使用することで複数人が同時に観察できることから、従来の半分程度の時間で観察でき、観察結果の話合いや資料を見る時間に充てることができるため、より深い内容の理解に繋がる。

・電子黒板

電子黒板に問題を提示し、タッチペンを使って説明している。従来行っていた黒板への記入よりも、分かりやすくきれいな図を見せることができる。

・デジ楽採点

定期テストや学力テストで使用。事前にテストの回答を登録し、生徒の答案用紙をスキャンすることでテストの採点を行うことができ、従来の丸つけにかかる時間の半分程度で採点可能。時間が短縮されるだけでなく、総合得点の比率を出したり、各問題の正答率等も自動で計算されるため、この結果を元に、生徒の苦手な部分を重点的に授業で解説するなど授業改善にも繋がる。

・Inter CLASS

生徒の活動の様子を確認したり、教員のパソコン画面を共有するために使用。

・スマイルネクストドリル

今年度試験的に導入したデジタルドリル。小2から中3までの問題に取り組むことが可能。各生徒の学習の進度によってつまづいている箇所の復習をすることができる。生徒が自分で、過去苦手だった分野に取り組み、学習調整を行っている。

・Google クラスルーム

生徒への情報共有やアンケートを行うために使用。各学級・教科・部活動などのクラスルームを作成し、各生徒が該当するクラスルームに登録している。また、全校生徒の連絡・発信も、全校生徒のクラスルームで行う。（例：全校道徳の振り返り、アンケート等）

授業においても、見通しを持たせるために流れを提示したり、資料等を添付することでその後の対話的な活動を効率よく行うことができる。端末1台で①課題を提示②資料の活用③意見の交流④レポートの作成が可能。

評価については「ループリック」という機能を活用することを職員に提案している。レポートを提出する際に、どのような観点で採点されるのか提示することで、生徒が見通しを持って取り組むことが可能。

・Google フォーム

アンケートや小テスト等に活用している。テストとしては、事前に回答を登録することができるため、小テスト終了後すぐに自分の結果を確認することが可能。また、

正答率を確認することができ、教員の授業改善にも繋がる。

授業終わりの振返りの時間には、生徒に疑問点や興味のある点等を記述してもらうことで、生徒の声を集め、教材開発に役立っている。

教職員向けのアンケートでも Google フォームを活用しており、得られた回答をスプレッドシートに一括表示することができるため、他の教員と共有することが可能。中学校は教科担任制で自分の担当する教科以外、様子がみえにくいですが、この機能を用いることで他の授業の様子を知ることが可能。

- Google ミート

学級閉鎖になった際、朝の会を開催するために利用。また、校内にあるゆつくりルーム（適応指導教室）から遠隔授業で参加することが可能。これにより、様々な事情により教室に入って授業を受けられない生徒の学習を保証することができる。

- Google スライド

レポートの作成に利用。教員・生徒や生徒同士でデータを共有することができるため、協同的な学びを促進することが可能。委員会活動でも、「全国学校給食週間」の取組として、教員と生徒で資料を作成し、給食時間にプレゼンテーションを実施。冬休み期間でも、家にいながらも協力して、資料を作成することができる。

- Google Jam ボード

付箋機能を使用し、自分の意見を提示することが可能。なかなか意見を言えない生徒でも、書き込みであれば意見できることもあり、貴重な手法だと考えている。授業の展開部分でよく使用している。

- Google サイト

学年・学級単位でサイトを作り、連絡用の掲示板として使用している。学級通信やテストの範囲表も共有することができ、大変便利なツールとして活用。恵庭市教育委員会で認証されたアカウントでしか見ることができないため、セキュリティ面でも安心できる。学級日誌をデジタル化したり、授業連絡をスプレッドシートにして共有している。

また、3年生の高校受験を応援する特設ページを作り、1，2年生からの応援メッセージを掲載するということにも挑戦した。このような取組をすることになったのは、「こんなことはできないか」という教員からの前向きな提案によるもの。

- Google スプレッドシート

テスト計画を作成しており、紙で印刷しない分、エコにも繋がっている。こちらについては、計画表を確認するために毎回端末を起動する手間があることから、従来通り紙媒体で行う場合もあり、状況に応じて使い分けている。

修学旅行の自主研修計画でも、班員と共有して行うことができるため、短時間で計画表を完成させることができる。

毎時間の学びの蓄積として、どのようなことを学んだのか、どのように考えたのかを入力させ、主体的に学習に取り組む態度の評価項目として活用している。

※学びの蓄積については Google スライドも活用している。単元の始めに問題だけを提示したスライドを配付し、授業が終わったら自分なりの言葉でスライドに答えをま

とめさせることで、より深い学びの蓄積に繋がると考えている。また、美術の授業でも、作品の写真を撮り、授業で学んだことや感想などをスライドにまとめることで、次年度の授業に活かすことが可能。

- ・ Google 共有ドライブ

各個人が紙媒体で作成したレポートをスキャンし、共有ドライブに保存することで、他の人のレポートを見て、よかった点や次のレポートに活かせそうな点を見つけて、コメントをすることが可能。他の生徒を評価することで新たな気づきがあったり、理解していなかったことを理解するきっかけになると考えている。

- まとめ

毎日必ずと言っていいほど、端末を活用した授業が展開されている。初めの頃は端末をうまく使えるのか、授業に役立てることができるのか、心配な面は多々あったが、私たちが想像している以上に生徒は柔軟性が高く、あっという間に使いこなせるようになった。

様々な社会問題や経済発展のためにテクノロジーを最大限活用することが求められる Society5.0 時代に突入するといわれている。コンピュータを中心とする端末の活用に慣れていかないと生き抜いていけない時代になるかもしれない。そういった社会を生き抜く力を育てるためにも、今後も様々な場面で ICT 機器を活用し、実践していきたい。

日頃より恵庭市教育委員会を始めとした多くの方々のご協力のもと、教育活動が成り立っていると感じている。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

## 【質疑・意見】

(市長)

各クラスで様々な取組を行っていると思うが、それを共有する場はあるのか。

(恵庭中学校 平地教諭)

昨年 7 月に行った職員研修の中で、教員同士共有する場を設けた。また、個人でも、取組内容を報告してくれることもあり、それを他の教員に共有することもある。

(A 委員)

本日の授業見学をしていると、学校全体で ICT 教育に取り組んでいるという印象を受けたが、実際はどうか。

(恵庭中学校 平地教諭)

端末を活用しない授業もちろんあるが、昨年度あたりから、Google アプリケーションを使って授業実践をしていこうという方向性で、各教員が自分の授業でできることに取り組んでいる。必ず使っているというわけではないが、実態や目的により端末を使用した方が効果的な場合は、できる限り活用していると思っている。

(市長)

デジ楽採点はフォームが決まっているのか。

(恵庭中学校 平地教諭)

フォームもあるが、教員が作成したテストも、事前に読み込めば採点することは可能。  
文章の採点は難しい。

(市長)

デジタルドリルとデジタル教科書の導入状況についてお伺いしたい。

(恵庭中学校 平地教諭)

デジタルドリルについて、今年は数学と英語を導入したが、毎年教科は変わる。主に  
主要教科で導入される。

(恵庭中学校 津谷校長)

デジタル教科書について、教員分は全て整備されている。生徒用については国に要望  
している。

(B委員)

学校を休んでいる生徒は、家でも同じように授業を受けられるのか。

(恵庭中学校 平地教諭)

家のインターネット環境が整っていれば、授業を見ることは可能。休んでいる理由に  
もよるが、保護者とも話をしたうえで、授業に参加してもらうことはできる。

(市長)

ゆっくりルームは校内にある教室なのか。

(恵庭中学校 平地教諭)

校内にある。学校には来られるが教室には行けない子が使用する。

(市長)

授業に参加もできるのか。

(恵庭中学校 平地教諭)

発言も可能。ただ、そもそも家で授業を受けるといふ生徒はほぼいない。

～授業視察（恵庭中学校）～

【質疑・意見】

（市長）

子どもも教員も、しっかりとタブレットを活用し授業を行っている印象を受けた。それぞれが考えている考え方を見ることができるのが良い。今後もシステムはどんどん良くなっていき、さらに習熟を高めていけるようなものが出来ていくと思う。  
また、皆で話し合いながら答えを見つけていく様子が多く見られた。今後もタブレットを活用し知識や経験を増やしてほしい。

（A委員）

例えば読書感想文について、生成A I を使えば簡単に書ける世の中になっているが、子どもたちにはどのような指導をしているのか。

（恵庭中学校 津谷校長）

学校として生成A I についての子どもへの指導はしていない。ただ今後は、学校単体ではなく広い範囲で決められていき、それに基づいて、子どもや教員が使用していくようになるのではないと思う。

（恵庭中学校 平地教諭）

生成A I については、子どもにあまり知られていないと思う。  
「生成A I で作られた文章の間違いを指摘しよう」をテーマに授業で一度使用したことがある。デジタルが全て正しいわけじゃないと伝えることができると思い、授業を行った。子どもたちはネットに書いてある情報が全て正しいと思っているが、どうやってネットにある情報を使用していくべきなのか、指導していかなければならないと思っている。

（市長）

生成A I については、文部科学省からガイドラインもでている。情報の真偽を確かめるなど、注意しながら使用した方がよい。

（A委員）

コロナ禍になる前に、本州の先進地視察に行ったことがある。恵庭市については学校訪問で毎年様子を見させていただいているが、本日、授業の内容について説明を受けて、恵庭市のレベルがかなりあがったと感じた。端末はツールの一つですので、うまく活用して子どもたちの成長に繋げてほしい。

(B委員)

皆の意見を見ることが出来るため、意見や回答の違いをどう捉えていくか、受け入れながら進めていくか、自然に身についていくのではと思う。タブレットを使うのにすごく慣れていたと感じた。今後子どもたちが社会に出たときに、一緒に仕事する時代が来るのだなと思うと同時に、自分も勉強していく必要があると思った。

(副市長)

最後にリモート授業では楽しい授業風景がみられたが、子どもから教室に戻りたいという声は実際にあったか。

(恵庭中学校 津谷校長)

リモート授業を配信しているということだけで学校復帰をしたという直接的な影響については分かりかねるが、ゆっくりルームのように教室には行けないが学校に居場所があり、子どもが学校と繋がる感覚を維持することで、少しずつ足が向かうということとは実際にあった。

(市長)

学校の授業風景をみられるだけで、子どもたちは安心を感じるだろう。

(恵庭中学校 平地教諭)

今まで教室に顔を出せなかった子が、コロナ禍でリモート授業していた時に、授業に参加し、授業の休憩時間等にクラスメートが声をかけることで、通常授業に戻った際にも、学校に少しずつ足を運ぶことが出来るようになっていった事例もあった。

(教育長)

恵庭中学校では、文部科学省でいわれている、校内に支援センターをつくることについて、ゆっくりルームという名称で先進的に始めていただいている。また、様々な教科で前向きにタブレット活用を取り入れていただき、とてもありがたいと思っている。令和3年の夏にタブレットを導入し、その年の冬にコロナで学校閉鎖になった際、できるだけ接触しないよう生徒玄関の靴箱に入れてタブレットを配布し、リモート授業をしていたが、迅速に対応できたのは、プロジェクトチームを立ち上げ、色々な準備をしていたからだと感じた。

(教育長)

授業を見学していた際、タブレットがうまく動かないクラスがあったが、これは全国的にある事象。文部科学省からは調査も入っており、これに関わる手当もしていたと思う。

(市長)

一度に多くのタブレットを使用すると起きてしまうのか。  
改善策はどうしているのか。

(ICT支援員)

起きてしまうことはあるので、その場合こちらで対応している。

(市長)

それは設備の不備なのか。

(ICT支援員)

設備やタブレットの不備による。

(恵庭中学校 平地教諭)

全生徒が一斉に使用すると、回線が混雑し繋がらなくなってしまうため、奇数クラスは前半の時間、偶数クラスは後半の時間に使用するなどの工夫をしている。

(教育総務課 主査)

今導入している機器だと、生徒数の多い学校だと、ネットワーク機器の容量的に一斉使用が難しい。

現在、ネットワークの接続に関する診断を行っており、不具合が起きるタイミングなどを調査している。そこで出た課題について、対応していく予定。

以上